

目 指 す 学 校 像	校歌の一節にもある「花咲く未来」を実現するために、「自主・自律・創造」の校訓のもと、生徒の「生きる力」を育むことで、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって社会に貢献できる人材を育成します。
-------------	---

重 点 目 標	1 S S H指定校としての取組を起点に、生徒一人ひとりに高い「志」を育んで、第一志望の進路実現を支援する。 2 探究的な授業を通して、自ら課題を発見解決する主体的な学習態度を育て、社会のリーダーとなる確かな学力を身に付けさせる。 3 北高生としての品格を高め、健全な心身と豊かな人間性を育む。 4 地域の理数教育拠点校として活動すると同時に、ユネスコスクール認定校としての取組を展開して、国際社会へ開かれた学校に発展させる。
---------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標								実施日令和8年2月6日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○令和6年度は、319名の卒業生のうち291名が大学、1名が短大、1名は防衛大学校、7名が専門学校へ進学し、19名が進学準備に入った。 また、国公立大学に54名（既卒者を含めると57名）が合格し、早慶上理に19名、GMARCHに94名が合格した。GMARCHの合格者は昨年よりは減少しているが、早慶上理の合格者は昨年と比べて約3倍の人数が合格した。さらに既卒者から、旭川医大の合格者もでた。 <課題> ○生徒が明確な高い「志」を抱き、主体性を持って挑戦し学ぶ姿勢を育むと共に、それを実現できる環境整備に努める。学校推薦型や総合選抜型など多様な入試形態にも対応できるよう、多面的な指導を行っている。	学びの質の向上 高い「志」の育成と進路実現	①生徒の「志」を高めるため、各学年・教科・進路指導部による組織的・計画的なキャリア教育を実施する。 ②自主学習を習慣化し、効果的な時間管理意識を高めるため、定期的に学習状況調査を行う。 ③学習の定着力を高めるため、補習(前期・長期休業・後期)を開設し、積極的な参加を呼びかける。 ④大学受験に対応した学びを一層深めるため、スタディサプリを活用する。 ⑤保護者と協力して生徒の大学進学を支援するため、保護者に対して最新の進路情報を発信する。 ⑥生徒の進路選択、進路実現を図るため、担任による二者・三者面談を実施し、適切な助言を行う。	①LHRや総合的な探究の時間等を利用して、学年に応じた進路行事を実施できたか。 ②自主学習時間を縮小させずに維持できているか。 ③年間で50講座以上の進学講習を開講できたか。 ④スタディサプリを視聴できているか。また、朝学習・宿題配信などでの活用ができたか。 ⑤学校からの進路情報の提供が役立ったと感じる3年生保護者は8割以上である。 ⑥面談や面接指導が自身の進路選択に役立ったと感じる3年生は8割以上である。	①各学年適切な指導ができた。1学年では「社会人講話」を約10年ぶりに実施 ②朝学習を実践し概ね維持できた。 ③1年13、2年5、3年58、計76講座実施、多くの生徒が参加した。 ④夏季休業期間の活用が著しい。 ⑤2学年保護者に対し、大学入試に関する説明会を行った。 ⑥スタディサポートや模試の結果から生かした。	A	「3年間を見通した進路指導」を確立するために、メディア管理部と連携し研修会を実施し、進路指導に対するの疑問点や意見などを出した。来年度は4月当初に進路指導部の方針として、全体で共有し進めていく予定である。	理数科設置から12年、この間の学校の変化は大きい、進学率の向上、SSH校としての成果、学校の評判、生徒の意識の向上は先生方の変化の結果と思われる。 先生方の異動による入れ替わりに左右されない大宮北高らしさの発展に期待したい。	
2	<現状> ○「自主」「自律」の校訓のもと多くの生徒は落ち着いた高校生活を送っている。生徒自ら学校生活の中で主体的に判断し行動できるような活動を促進する。 ○自転車通学、交通機関利用通学ともに多くの生徒は安全に登下校をしている。 ○ICT推進校として各教員がパフォーマンスを発揮しやすいように得意とするプラットフォームを活用してもらっている。一方で生徒やその他の教員から操作方法やエラーでの問い合わせが増えている。 <課題> ○自転車事故件数を減らすことと、自転車走行中のヘルメット着用率100%を目標とする。 ○教育相談の件数が年々増加しているので、カウンセラーと相談しやすい環境作りと、早期に相談に来られるような情報発信と体制づくりを進めていく。	安心安全な高校生活 ICTの強みを生かした授業での生徒支援 学校行事の充実感	①登下校マナーアップ・駐輪マナーアップ・ヘルメット着用点検等を風紀委員会が行う。 ②教育相談委員会を各学期定期的に実施する。スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカー、教職員、保護者間で情報交換を密にする。 ③携帯・インターネット安全教室を年度当初に実施し、年間を通じて生徒の意識向上を図る。 ①マニュアルや仕様書を充実させ、エラーが起こった際にメディア管理部が業者との窓口となり対応できるようにする。 ②図書館オリエンテーションにて生徒制作の動画等も見せ、図書館を身近に感じさせる。広報誌の作成、文学散歩などを実施する。	①風紀委員、教職員による各活動が1年間を通して行われたか。登下校等、マナーアップが図れたか。 ②教育相談委員会を各学期実施できたか。関係者間で情報を密にし、共有をすることができたか。 ③携帯・インターネット安全教室を実施し、十分な指導ができたか。	①駐輪点検と登校指導を年間通して行った。ヘルメット持参率はアップし、重大事故の件数も減少した。 ②教育相談委員会を毎学期実施、情報を共有しアドバイスも聞けた。保護者相談も実施できた。 ③携帯・インターネット安全教室等を実施、SNS利用マナーについて配信し、意識向上を図る指導が出来た。 ①エラー内容を入力する端末をメディア管理部に常設し内容を集約することが出来た。 ②利用者・貸出数が増加した。3年の昼休みの利用が特に増えた。文学散歩は予定通り実施した。	A	生徒自らが主体的に判断しマナーアップ出来るように取り組む。 生徒を相談に繋げ、細かな情報まで共有する。 契約更新に対応できるマニュアルを検討する。 「文学散歩」は今後も継続していく。 生徒がさらに主体となり、考え、判断し、活躍するように体制整備に努める。生徒会本部だけでなく、各実行委員会がより機能的な組織となるようきめ細かな指導が必要である。委員会の活性化を図るため、業務内容を整理する。	他校より挨拶が徹底し、自転車通学のヘルメット着用率が高いこと、先生方の声がけ等の成果と思われる。やらされる行事、学校生活ではなく生徒が主体的になることは継続的な指導が必要と思われる。 制服のルール等、生徒の声にも耳を傾けより改善されるべきものと考え、十分な検討を進めて欲しい。	
3	<現状> ○活動内容に応じた地域との交流を積極的に進めている。 ○志願倍率は普通科1.41倍、理数科2.12倍となった。入学者選抜において高倍率を維持すべく、募集業務の検証、改善をすすめている。 ○2年生が行うOnlineによる共同研究やSSH海外サイエンス研修、それらのアウトリーチ活動を実行している。 <課題> ○地域の理数教育拠点校として、本校の取り組みを、アウトリーチ活動を通じて、市内の小中学校に伝えていく。 ○小中学生のサイエンスに対する興味関心を高めていくと同時に「さいたまSTEAMS教育」の核となる生徒の育成を図る取り組みを実践する。	開かれた学校づくり 地域の理数教育拠点校	①新入生アンケートを実施し、中学生の視点での魅力を確認する。 ②観点別評価における評価規準のたて方、保護者や生徒への周知の方法等について、校内で研究を進める。 ③外部から見た本校への評価・期待値を把握するため学校運営協議会等を実施し、指導・助言内容を踏まえ改善を図り、改善内容を保護者へ周知する。 ①「自由研究サポートプログラム」「ASEP JHS」「小学生サイエンス教室」を充実させ、参加者の満足度を上げていく。 ②地域の理数教育拠点校として市内の小中学校との連携を深め、情報の発信や新規事業を展開していく。	①アンケート等が実施され、生徒募集行事改善に役立てられたか。 ②全ての教科・科目で指導と評価の一体化が実現できたか。 ③学校運営協議会等での意見などが本校の教育活動の改善につながっていると感じる保護者が5割以上である。 ①サイエンスに対する興味関心を高めるためのイベントなどを企画実行することができたか。 ②「STEAMS Time」を計画通り実施し、市内の小中学校との連携を深め、情報の発信や新規事業を展開することができたか。	①アンケートを実施し、中学生の関心事項を説明内容に生かした。 ②観点別評価4年目となり教科ごとに評価方法がまとってきた。 ③中学生や塾等に適切に情報を提供し、第0回の学校説明会の参加者の増加に努力した。 ①小学生は減少したが、満足度は維持され、ASEP参加者は増えた。 ②「STEAMS Time」の実践を通じた小中学校との連携は、途上である。情報発信の方法など検討していく。	A	新入試に向けて情報共有を密に行う。 全教科で観点から評価への換算表の統一を図る。 複数分掌で連携し、募集業務の改善を進める。 小学校や中学校にはないイベントを考え、さらに興味を持ってもらえるようにする。	塾や予備校に頼らずに勉強できる環境整備や、自らが主体的に学習に取り組む姿勢の指導を継続して欲しい。	
4	<現状> ○新学習指導要領実施4年目となり、観点別評価規準の立て方、ルーブリックの作成や評価方法などを改善してきたが、各教科でさらに研究し、教科間で共有していく必要がある。 ○海外との交流事業を多く実施しているが、その成果を検証し、学校全体としてより効果的な取組としていく必要がある。 <課題> ○国際交流委員会を中心に関係各所との業務連携を図る。 ○各分担で業務の内容、進め方について検証し、各業務複数体制の徹底を継続する。担当者の入れ替わりを考慮し、業務の引き継ぎを含め、さらなる効率化を図る。	教育環境の整備 国際交流の推進 学習環境の向上	①これまで実施してきている海外派遣事業、留学生受入事業を実施する際に複数分掌で対応し、潤滑な運営と内容の充実を図る。 ②海外との交流行事について、継続的な関係を築き学校全体での取組を推進する。また、交流経験のある海外の学校に対し、連絡の集約を実施し大宮北高校を中心とした国際交流事業の基盤を築く。 ①業務を複数で取り組むように努め、次年度に引き継げるよう、各業務の仕事内容を文字化し、反省点等をデータに残しておき、担当者で業務の進め方の工夫を図る。	①交流事業において、参加した生徒が満足や達成感を感じ、成果をあげられる計画になっているか。 ②海外連携等を関係各所と連携し、組織的かつ協力的に進められたか。	①参加生徒が主体的に取り組める事業を実施した。満足感や達成感が見られ、国際理解につながった。 ②国際交流委員会を中心に関係分掌と連携し、組織的に進めることができた。複数分掌で対応する体制を整え、円滑な遂行につながった。	B	職員全体が理解できるような仕組みを作り学校全体の取り組みとする。 国際交流委員会の位置づけを明確にし、関係各所との連携を密にし、学校全体で推進していく。	ICT先進校として、教育環境の整備や体制づくりを継続し、生徒に還元して欲しい。	
5	<現状> ○SSH2期4年目に入り、今年度より新たに加わる事業と、昨年行った事業の融合を図るとともに、3期申請に向けての具体的な方向性と計画を考え、実践していく必要がある。 ○科学的な視点に立って物事を考えられる取り組みの開発を行い、生徒に提供することで、より思考力を深化させていく必要がある。 <課題> ○海外の現地校とのお互いにとって充実したプログラムとなるよう、体験プログラムや事前研修の計画を立て継続的に実践する必要がある。 ○3年間のSTEAMS Time、SSHサイエンスフィールドワークを重点に実行していく。	教職員の資質能力向上 探究的な学びの推進 グローバルサイエンスリーダーの育成	①生徒の想像力、探究力および発表能力を育成するために本校独自の課題研究ガイドブックを作成し、具体的な活動計画を作成する。 ②多くの生徒が参加できるサイエンスフィールドワークを実施し、継続的な活動を行う環境をつくる。 ①BEST ClaSSやGC4Sを通して英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。多くの生徒がOnlineによる活動に取り組み、海外との共同研究を複数回設ける。 ②ハワイ、インドネシア、インドのサイエンス研修での共同研究とフィールドワークを、生徒が企画・実施できる活動計画を作成する。	①STEAMS Time Iは昨年度の総括を反映した内容になっているか、STEAMS Time IIは新しい状況に対応するための計画実施することができたか。 ②参加者アンケートの結果が好評であったか。	①STEAMS Time Iは、実際にどのような研究があるかを調べた。STEAMS Time IIの研究テーマの文献調査を行った ②生徒アンケートは良好であった。 ①多くの生徒が海外の生徒と触れ合う機会が多かった。AIGROWを使った評価は、主体性と外交性についてコンピテンシーが高い結果となった。 ②海外サイエンス研修のアンケートはおおむね良好である。	A	BEST ClaSSやGC4Sでの積み重ねを普段の授業や英語でのコミュニケーション力向上のためになる仕組みを考えたい。 国際交流にとどまらず、共同研究までできるようにプログラムの検討をしていきたい。	SSH校であること、海外連携が多数あることは生徒・保護者に関心が高い。多くの機会がある体制が維持できるように、多くの生徒がそのチャンスを生かして成長していけるように継続していった欲しい。	